15.陸の豊かさも守ろう

Hヴィレッジに双子のヤギが入寮―学生主導のヤギプロジェクト―

湘南藤沢キャンパス（SFC）内学生寮「H（イータ）ヴィレッジ」に、双子のヤギ「カイくん」と「マユちゃん」が入寮しました。

本取り組みは、寮生が立ち上げた「ヤギプロジェクト」によるものです。外来種の雑草処理に苦慮していた寮父との会話をきっかけに、雑草を好んで食べるヤギの習性を活かした自然な力による除草の可能性に着目し、企画されました。ヤギの誘致のほか、クラウドファンディング、ヤギ小屋の建設も学生自らが手掛けました。

2頭はHヴィレッジ隣接地での除草を担います。ヤギによる除草は、化学除草剤を用いずに自然の力を活用する方法であり、生態系や土壌の保全にもつながる取り組みとして期待されています。



カイくんとマユちゃん

第24回「森を愛する人々の集い」開催

慶應義塾は、現在全国に義塾所有山林や国有林分収契約山林をあわせ約160ヘクタールにおよぶ山林を保有し、植林・育林活動を行っています。これらの活動を支援する目的で2001年に発足した「福澤育林友の会」主催による「森を愛する人々の集い」が、2025年6月14日に三田キャンパスにて開催されました。当日は同会の会員や学生など、約70名が参加しました。

24回目を迎えた今回は、一ノ瀬友博環境情報学部長が「南三陸慶應の森の自然環境と生物相」と題して登壇しました。講演では、バイオマスや農業、資源循環といった多様な視点から、環境課題の解決を目指す研究や活動が紹介されました。また、大学院生によるポスターセッションも実施され、志津川山林の自然環境と生物相について、活発な意見交換が行われました。



一ノ瀬環境情報学部長による講演

塾生会議プロジェクトの活動

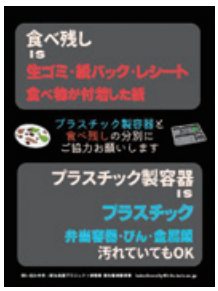
塾生会議から提出された提言の中から審査を経て採択されたものは、学生が主体となる「塾生会議プロジェクト」として具体化され、様々な活動へと発展していきます。

ごみ箱改革プロジェクト

「『ごみ箱改革』を起点に『持続可能な慶應義塾』を実現する」ことを目指し、「2050年までに慶應義塾のリサイクル率を100%にする」すなわち「ごみ箱の異物混入率を0%にし、ごみを資源として100%活用することで、塾内で資源の循環を達成する」をゴールに掲げているプロジェクトです。

日吉キャンパスを中心に実施してきた、ごみの分別啓発活動を、2025年度は他キャンパスに広げるほか、割り箸回収活動も本格化させ、「より多くの学生・教職員がごみの分別や資源循環を習慣化すること」を目的に活動しました。

2025年10月～2026年1月、三田キャンパスにごみの分別を啓発するポスターを掲示しました。また、2025年10月～2026年2月には、日吉キャンパスの学生食堂「グリーンズマルシェ」に使用済み割り箸回収ボックスを設置し、5カ月で約21,400膳（約85.6kg）の割り箸を回収しました。回収した割り箸は製紙工場に送られ、紙の原料として生まれ変わります。割り箸を資源として活用できるとともに、燃やすごみの削減にもつなげることができました。





ごみ分別啓発ポスター



回収された割り箸